

科目名	人 権	科目分類	■専門科目群 □総合科目群	
			法律学科	□必修 ■選択
			国際観光学科	□必修 ■選択
英文表記	Human right	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
ふりがな	わたべ たかあき	実務家教員 担当科目	修得単位	4単位
担当者名	渡部 高明	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	憲法は、人類の歴史から学んだ国民の誰もが知っておく意義ある、国の基本法です。日本国憲法における、人権の意義と憲法条文の解釈、および憲法判例の理解をテーマとします。			
到達目標	憲法の存在意義と人権の必要性、具体的な裁判事例を理解することができる。			
授業概要	憲法の意義、日本国憲法の成立と展開、人権規定の内容と判例を、とりわけ戦後の憲法学をリードしてきた芦部信喜教授のテキストを中心に理解することで、現代人権論の基本的考え方を学ぶ。			
授業計画				
第1回	憲法学とは何か	第17回	信教の自由	
第2回	憲法と立憲主義	第18回	学問の自由	
第3回	立憲的憲法の特徴	第19回	表現の自由 I	
第4回	大日本国憲法と日本国憲法	第20回	表現の自由 II	
第5回	日本国憲法の成立過程	第21回	集会結社の自由・通信の秘密	
第6回	人権宣言の歴史、人権の観念	第22回	経済的自由権 I	
第7回	人権の内容、人権の享有主体	第23回	経済的自由権 II	
第8回	人権の限界—公共の福祉	第24回	人身の自由 I	
第9回	二重の基準論、特別権力関係	第25回	人身の自由 II	
第10回	私人間の人権保障	第26回	生存権	
第11回	個人の尊厳と幸福追求権	第27回	国務請求権、参政権	
第12回	法の下の平等 I	第28回	教育をうける権利	
第13回	法の下の平等 II	第29回	労働基本権 I	
第14回	思想良心の自由	第30回	労働基本権 II	
第15回	振り返り学習	第31回	振り返り学習	
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験	
授業時間外の学習	まずテキストを1回の授業分は読んでください。(0.5時間) そして、単に講義を聴くだけでなく、自ら事件や裁判例を通して、人権の諸問題と解決策を考えましょう。従って、具体的判例へのレポートを求めることがあります。また、毎日の新聞・ニュースに目を通すことをおすすめします。(0.5時間)			
履修条件 受講のルール	統治機構を履修していることが望ましい。			
テキスト	芦部信喜・高橋和之補訂『憲法第七版』(岩波書店)			
参考文献・資料	憲法判例(実務教育出版)			
成績評価の方法	試験(80%)、提出物(10%)、毎回のコメントシート(10%) 出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金の全額が納められていない場合は試験を受けることができません。			
オフィスアワー	毎週木曜日 4 限目と金曜日 2 時限目			

成績評価の基準	秀 (100～90) 優(89～80点)、良(79～60点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	日本国憲法は、国民がよく内容を理解しておくべき価値の規範です。憲法の存在意味と日常に関する現実性を考えていきましょう。